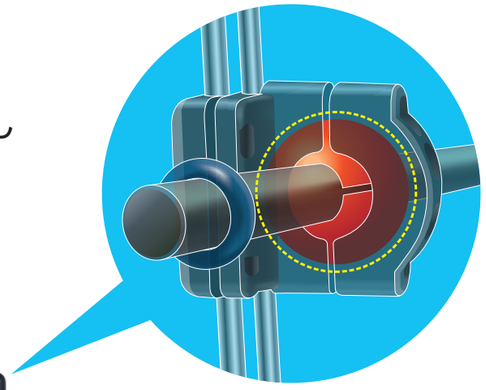
# BGF WRIST-BRIDGING EXTERNAL FIXATOR クイックフィクサー創外固定器D

## 【特長】

- 創外固定器本体 51g と超軽量型
- 全てディスポーザブル品でメンテナンスの必要なし
- 本体、ロッドにラジオルーセントを採用
- 手技の簡便化により、手術時間の短縮が可能



ボールコレット採用により、
掌屈背屈位での固定も可能

※ボールコレットは強調するため赤くなっておりますが
実際の製品はクリア色です。

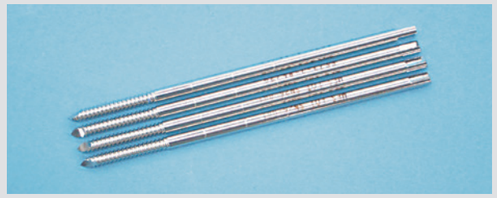
### ◆BGFクイックフィクサー創外固定器D

届出番号 13B1X00142000003

**BE-1300**
外形寸法：W200×D30×H24 (mm)
重　　量：51g

### ◆Sピン

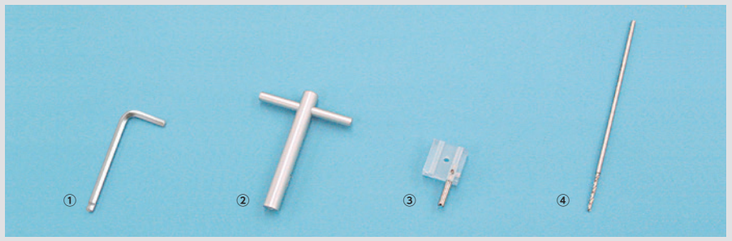
承認番号 21400BZZ00286000



**SS73-3-85/20**
ピン径：φ3mm、全長／ねじ長：85mm/20mm
材　質：ステンレス鋼
タイプ：セルフドリリング セルフタッピング

### ◆BGFクイックフィクサー創外固定器用インスツルメント

届出番号 13B1X00142000004




①六角レンチ 3mm（TL1-20）
②ピンインサーター（BE13-1）
③シース付ガイド（BE12-3）
④段付ツイストドリル 2.4mm（BE12-2）


製造販売元

MES 株式会社 エム・イー・システム
〒164-0013　東京都中野区弥生町2 - 13 - 4
TEL.03-3375-6767　FAX.03-3375-8011
http://www.mesystem.co.jp/


代理店


改良などの為、予告なく変更することがありますので、ご了承下さい。



BE202312・007


MES
Medical Engineering System

WRIST-BRIDGING EXTERNAL FIXATOR

# BGF
# クイックフィクサー創外固定器D

エム・イー・システム

# 基本手術手技

## 各部の名称

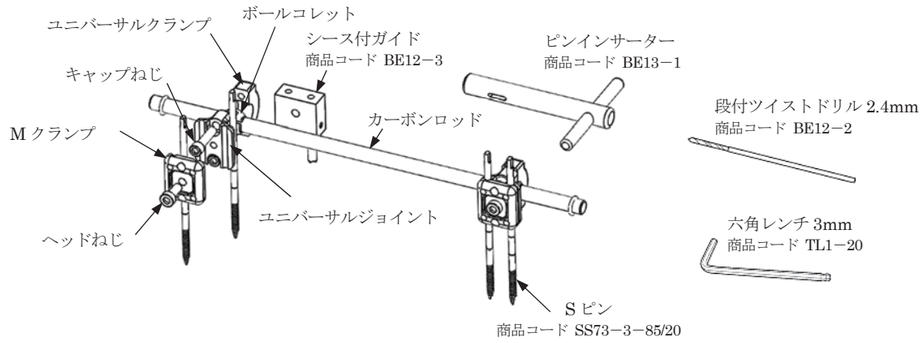



図１　各部の名称

## 整復及び留意事項

① 腋窩ブロックまたは全身麻酔でおこないます。
② 術前に牽引しておくと術中の整復位が得られやすく、更に創外固定前の徒手整復が重要です。
**フィンガートラップ**を用いると牽引がしやすくなります。
③ 大きな骨欠損があり、橈側偏位の残存や橈骨長の不足がある場合は骨移植が必要となります。
腸骨から皮質骨付の海綿骨を移植するのが理想的です。
④ 骨折が関節面にまで及んでいる場合は、関節面の整復も重要となります。創外固定器だけで
関節面整復が保てない場合は、Ｋワイヤーで保持する必要があります。
⑤ ドリリングはできるだけ低速で行い湿潤を保って下さい。
⑥ 必ず**ドリリング毎に溝に付着している骨粉を取り除いて**下さい。骨粉がシース内に残っていると
骨粉が圧縮され、刺入時にＳピンとシースが固着してしまいます。

## 中手骨への刺入

① 麻酔下でおこないます。ターニケットの使用が理想的です。
② シース付ガイドを準備します。（図２）

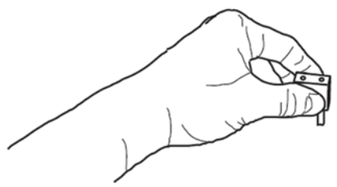


図２　使用方法

③ 刺入位置、角度を決めます。最初に中手骨近位に刺入します。このピンの刺入位置と角度は重要です。
④ 位置は中手骨骨底部のやや広がった部分です。角度は前額面から 45°の角度をつけて刺入します。
この時、中手間関節及び掌側の骨間筋や背側の伸展機構を損傷しないようにしてください。（図３）

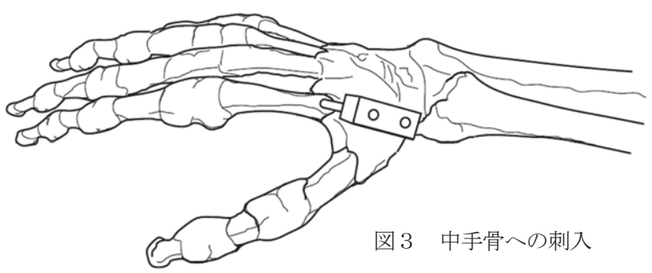


図３　中手骨への刺入

BGF クイックフィクサー創外固定器 D

⑤ ドリリングをおこないます。まず刺入位置、角度が決まったら小切開します。
シース付ガイドを差込み、付属の段付ツイストドリルで反対側の皮質骨を貫通するまでドリリングします。（図３）
その際、低速で湿潤を保ちながらドリリングを行ないます。
シース付ガイドやドリルが滑る場合は骨膜を剥離したほうがよいでしょう。

⑥ 中手骨近位にピンを刺入します。付属のピンインサーターを使用し、手回しにて刺入します。
反対側の皮質を貫通したら刺入を終ります。ピンは１回転で約 1mm 刺入されます。
ピンのねじれによる破損に注意します。若年層の場合、皮質骨が硬いので特に注意します。
**※ピンを奥までしっかり入れてください。側面の穴から確認することができます。**

⑦ つぎにシース付ガイドのシースがない方の穴に刺入したピンを挿入します。
中手骨遠位の刺入位置を決め、同様にドリリングの後、ピンインサーターを用いてピンを刺入します。

## 橈骨近位部への刺入

① シース付ガイドをピンから外し、本体を仮固定します。この時のユニバーサルクランプの可動範囲内で
橈骨の刺入位置を決定します。
② 位置が決まりましたら、橈骨のピンを同様にドリリングの後刺入します。
この時橈骨神経浅枝の損傷に注意し、長母指外転筋と短母指伸筋を貫通しないように
なるべく遠位に刺入します。（図４）

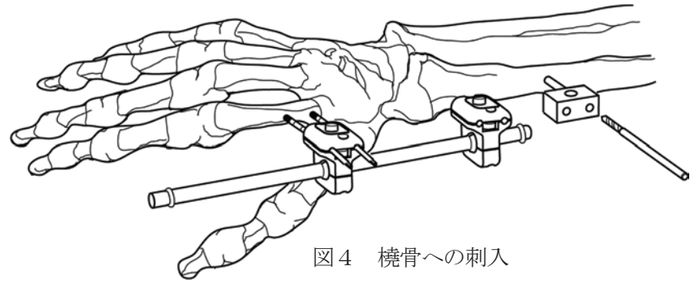


図４　橈骨への刺入

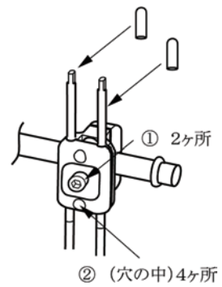



図５　締付順序

③ シース付ガイドを外し、本体を固定します。
まず、①のネジを締めピンと本体を固定します。
④ 整復位が決まったら②のネジを締めます。
レンチの長い方を持って強く締めます。（図５）
⑤ キャップをピンに取り付けます。
⑥ 初期伸びがあるので 2､3 日後にゆるみをチェックして増し締めを行ないます。
以降の増し締めを行う場合は、確認程度の力で行なってください。

## 抜去方法

① 「図５　締付順序」とは逆の手順でネジを緩め、ピンから本体を外します。
② ピンインサーターを用いてピンを左回りに回して抜去します。